



## 「自主活動」への参加と成人教育研究

著者	崔 敏奎
号	63
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	教博第203号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00126286">http://hdl.handle.net/10097/00126286</a>

チェ

ミンギョ

崔 敏 奎

学 位 の 種 類      博士（教育学）

学 記 番 号      教博 第 203 号

学位授与年月日      平成 31 年 3 月 27 日

学位授与の要件      学位規則第 4 条 1 項該当

研究科・専攻      東北大学大学院教育学研究科（博士課程後期 3 年の課程）  
総合教育科学専攻

学位論文題目      「自主活動」への参加と成人教育研究

論文審査委員      （主査）

教 授      高 橋      満

教 授      甲 斐 健 人

准教授      市 毛 哲 夫

## ＜論文内容の要旨＞

本研究は、教育・学習における新たな公共性を生み出す活動として注目されている「自主活動」がもつ教育学的意義と学びのプロセスを明らかにすることにおかれる。とくに、制度・政策というマクロな議論ではなく、事例に即して、ミクロな視点からアプローチする。

序章では、この問題をグローバリゼーションの政治経済的支配から整理し、今日の教育・学習活動における新たな公共性を生み出す活動として多様な市民や住民の自主活動が注目されていることを述べた。

では、市民や住民の自主活動がもつ教育的、学習的意義とは何か。

第 1 章では、序章での問題所在を踏まえて本研究における目的や研究対象、方法を明らかにした。本研究の目的は、教育・学習における新たな公共性を生み出す活動として注目されている自主活動がもつ教育学的意義を明らかにすることに設定した。研究対象の 1 つ目は高齢者の健康づくりにおける自主活動であり、2 つ目は、災害復興地域づくりにおける住民の自主活動である。目的を遂行するための研究方法として、まず、先行研究の検討を行うことにした。

第2章では、先行研究の批判的検討を通して本研究における理論的立場の確立と課題・方法の再設定を行った。先行研究の指摘として3つを挙げた。第1に、自主活動がもつ教育・学習力に期待が寄せられているものの、実際には自主活動の事例に着目して自主活動がもつ教育学的意義を明らかにした研究は少ない。第2に、その数少ない自主活動の事例研究では、各自主活動がもつ教育学的意義を明らかにしていることは大きな意義をもっているが、その自主活動における活動のプロセスは単なる活動実態の紹介に留まっている。自主活動における活動のプロセスを学術的な視点から詳細に分析することが求められる。第3に、そのため本研究では自主活動のプロセスを分析する際、有用な学術的視点を与えてくれる理論として欧米の成人教育学理論の状況的学習論の立場に立つが、状況的学習論ではまだ捉えていないところを議論し指摘した。1つ目は、状況的学習論における分析単位であり、2つ目は、状況的学習論における分析視野である。以上の先行研究の批判点を踏まえて本研究の理論的立場と分析視野を確立し、課題を抽出した。理論的立場は、「状況的学習論」であり、事例を分析する分析視野は「自主活動」に参加している「参加者たちの意識や行動の変革」「実践コミュニティのルールや方向性といった実践コミュニティのアイデンティティの変革」「参加者に置かれている或いは囲まれている状況の変革」である。ここでいう変革のプロセスを本研究では学びのプロセスとしてとらえる。したがって、本研究の課題を「本研究で確立した理論的立場と分析視野から「自主活動」の具体的な学びのプロセスを明らかにすること」に設定した。研究方法としては、具体的な「自主活動」の事例を取り上げ、質的調査を行った。分析手法は、MAXQDAで1次分析を行い、その後、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて2次分析を行った。

第3章では高齢者の健康づくりの「自主活動」である「つるがやりフレッシュ倶楽部」の事例を取り上げ、そこでの学びのプロセスと意義を明らかにした。高齢者が健康づくりの「自主活動」に参加をすることにより、「運動に関する意識や行動の変革」が生じたが、それ以外にも「人間関係の広がり的大事さ」という学びも生じたことが明らかになった。また、ここでの学びでは、「自主活動」が「情報の場」としてのコミュニティの変革や、「地域に関心がある」という地域の状況の変革も生じたことが分かった。つまり、高齢者の健康づくりの「自主活動」における学びのプロセスは、単に自分の健康に関する意識や行動のみ変革するプロセスではなく、そこでの学びは、コミュニティの変革と自分や地域の変革も生じる学びのプロセスがあった。また、運営者として参加することの意味や「自主活動」に再参加した高齢者の「包摂」のプロセスから高齢者の健康づくりの「自主活動」は単なる運動増進を目的とする自主活動ではなく、「包摂的な地域社会」を構築する学びの力を内包していることを高齢者の健康づくりにおける「自主活動」の教育学的意義として考察を行った。

第4章では、災害復興地域づくりの住民の「自主活動」である「南三陸町入谷地区の住民の自主活動」の事例を取り上げ、そこでの学びのプロセスと意義を明らかにした。ここでの学びは、まず、「災害復興地域づくりと連携」の学びが生じ、参加を深めることによって「自立志向」や「信頼の学び」が生じた。ここでの学びのプロセスは、単純なプロセスを経ることではなく、各学びには「意識や行動の変革」「コミュニティの変革」「状況の変革」といった社会的文脈の側面がお互いに総合的重層的に絡みながら学びが生じ、参加を深めること

によって各学びが繋がるプロセスを見せていた。また、「学びの場として災害復興地域づくり」の学びが「地域の災害復興レジリエンスを高める学び」であることを災害復興地域づくりの「自主活動」における教育学的意義として考察を行った。

本研究では、今まで焦点化されなかった「自主活動」の学びのプロセスの解明を通して、この教育学的意義を明らかにした。

## ＜論文審査の結果の要旨＞

本研究は、2つの地域における2つの「自主活動」を事例に、この活動を通してつくられるノンフォーマル、インフォーマルな学習の内容及びプロセスを明らかにしつつ、学習の意義を解明しようとする実証的研究である。

本論でも指摘されているように、グローバリゼーションや改革のなかで市民の自主性、主体性がとりわけ強調されおり、政策の実行上も、NPO などサードセクターへ期待が注がれるなか、市民の「自主活動」に注目することは時宜を得た研究テーマとして評価できる。

しかしながら、「自主活動」の「自主性」をめぐるではより注意深い検討を要する点がある。なぜなら、「自立」や「自己責任」とともに、この概念には新自由主義のイデオロギーが浸透していることはすでに多くの論者が指摘していることであり、さらにフェミニズム・ケア論者が主張するように、人はそもそも相互依存性をその本質とするのだという哲学的議論があるからである。

こうした基礎的検討がまだ残されているとはいえ、その研究について評価すべき点も少なくない。

まず、第1に、自らの理論的立場を「状況的学習論」に置きつつも、これを批判的に吟味して克服すべき点を自覚的に実証研究に生かそうとした点である。従来、成人教育研究では、自らのよってたつべき理論的立場に無自覚なまま研究をすすめている、という批判を受けざるを得ない状況があった。この点で、本研究は、一步の前進を示しているといえる。

第2に、とりわけ第3章の介護予防活動における学習活動の分析を通して、健康意識の向上にとどまらず、社会関係資本を生み出すことを通して社会的に排除される高齢者をコミュニティで包摂する役割を果たしていることを実証的に明らかにしている。つまり、「自主活動」への参加が排除される人たちの包摂の機能をもつことを実証していることである。

第3に、このことは別の面から見れば、学習を個人的な知識や能力の向上としてのみとらえるのではなく、協同的活動としてとらえることの必要性和重要性を指摘する成果となっている。欧米の成人教育研究の多くが、教育機関における学級や講座における、合理的に思考することのできる、自立した個人の省察のプロセスとして学習をとらえる傾向があり、こうした研究に実証を持って一石を投じる研究となっている。

先に指摘したように、いくつかの検討すべき課題を残してはいるものの、広くいえば、社会的活動と学習との関連というテーマに重要な知見を加えた研究として評価できる。よって、本論文は博士（教育学）の学位論文として合格と認める。